

韓国中山間地域の活性化事業と定住環境改善に関する研究

The Study on Regional Activation and Improvement Of Settlement Conditions in Hilly and Mountainous Villages in Korea

○金永柱*・高橋強*・崔洙明**

KIM YoungJoo*・TAKAHASHI Tsuyoshi*・CHOI SooMyung**

1. 研究の背景と目的

中山間地域の農業・農村は、担い手の減少や高齢化、過疎化の進行など厳しい状況にあり、相対的に都市近郊及び平地農村地域に比べて生産・生活環境の整備水準が立ち後れている。そこで、地域の活性化及び定住環境の効率的な改善を図るため、これまで様々な活性化対策が実施されてきた。これらの事業がどの程度の効果や成果を果したのかという実証的研究はほとんどみられないが、今後、中山間地域の活性化のための政策や事業等をより効率的に推進していくためには、今まで行われてきた事業の評価・分析が不可欠である。そこで、本研究では地域活性化事業に対する効果及び成果を分析し、地域の定住環境改善に及ぼす影響について考察するとともに、将来中山間地域の活性化及び定住環境改善のために必要な集落整備や開発方向を明らかにする。

2. 研究の方法

既往の研究に基づいて、事業評価に関わる要因を収集し、これを基に効率的で客観的な分析のための評価目標体系を構成する。そして地域住民と行政職員を対象とした評価を実施し、AHPプログラムを利用して評価量を算出する。この結果に基づいて、活性化事業が地域の定住環境改善にどのような影響を及ぼしたのかを考察する。さらに、今後の地域活性化と定住環境改善に必要な集落整備及び開発方法についても、上記と同じ分析方法によって考察する。

3. 活性化事業が定住環境に及ぼした影響評価

3.1 事例地区及び活性化事業の概要

本研究の対象地域としては、韓国の智異山国立公園の西側に接しており、海拔 300-380mの急傾斜地に位置している求礼郡山東面位安里を選定した。人口は、71 世帯、166 人の規模であり、特に 65 才以上人口率は 21.7%で、求礼郡の 15.5%に比べて高齢化も深刻な水準にある。

求礼郡は深刻化する過疎化と高齢化に対処するための方策として、地域特産物の一つである山茱萸を用いた活性化対策を立案し、住民の生活の質の向上と所得増大、及び地域経済の活性化等の目的をもって1999年3月に第1回山茱萸祭りを始めた。以後、毎年3月に3日間の山茱萸祭りが実施され、多くの観光客を集めている。

3.2 地域活性化事業が及ぼした影響の評価

評価要因の選定は、基本的に地域活性化事業の目的を踏まえ、第一に地域活性化事業の基本目標である過疎化・高齢化の緩和及び住民の意識変化を代表する人文社会環境効果、第二に住民に実質的な生活の利便性を提供する生活環境改善効果、第三に住民の産業活動の基盤である農業の活性化の3つの要因に大分類した。中・小分類要因は、表1の通りである。調査対象は山茱萸祭りを担当する郡庁・面事務所職員(9人)、及び地域住民(28

表 1. 地域活性化事業の評価目標体系

Table 1. Assessment Goal System of Regional Activation

大分類	中分類	小分類
人文社会 環境効果	精神的豊かさ	愛郷心の増大
		コミュニティ意識の増大
	物理的豊かさ	心の豊かさ
		地域イメージアップ
		都市農村交流の増大
		地域資源の活用効果
過疎化と 高齢化緩和	美しい自然環境や景観保全	
	観光客の増加	
生活環境 改善効果	道路と交通 の改善	人口流出の減少
		U-ターンの増加
		集落連絡道路の改善
	生活利便施設 の改善	集落内道路改善
		公共交通の改善
		便益施設の拡充
生活基盤施設 の改善	教育福祉施設の拡充	
	医療福祉施設の拡充	
	住宅整備の改善	
	保健衛生施設の改善	
農業活性化 効果	農業イメージ の改善	集会施設の設備改善
		地域情報化に寄与
	農業経済的な 効果	農業重要性の認識増大
		耕作放棄地の減少
農業基盤整備 の改善	特産物のイメージアップ	
	農産物販売所得の増加	
	付加所得の増加	
		兼業所得の増加
		農道の整備
		棚田の整備
		用排水路の整備

京都大学大学院農学研究科*・韓国全南大学校**Graduate School of Agriculture, Kyoto University*・Chonnam National University, Korea**

キーワード：地域活性化、中山間地域、集落計画・整備、定住環境

人)とした。評価結果は図1の通りである。ここで、各々の評価結果は、全体の評価要因を100点として算出した大きさである。

評価結果、地域活性化事業の効果を代表する3つの大分類要因は、同程度の重要度を示していることから、本山菜莢祭りは部分的ではなく、多様な成果を収めたといえる。さらに、中分類要因別にみると、要因間に大きな差は見られないが、農業経済的な効果→物理的な豊かさなどの順で、山菜莢祭りの目的である地域住民の所得増大と生活の質の向上に寄与していたことが分かる。小分類要因の分析結果、地域資源の活用効果、特産物のイメージアップ、観光客の増加、兼業所得の増加等の順で、地域活性化事業の根本的な目標である地域経済の活性化や地域発展などに寄与しているといえる。逆に、人口流出の減少及びUターンの増加、コミュニティ意識の増大等の要因が低く評価されているので、これを補完するための対策が必要と考えられる。

評価者の職業別に見ると、農家では中分類要因の精神的な豊かさ以外はほとんど同程度の評価結果を示しているが、農業経済的な効果は極めて高く評価した。しかし、公務員の場合には、道路と交通の改善及び、農業経済的な効果を高く評価した。逆に、商業及びサービスに従事する地域住民は、過疎化と高齢化の緩和及び物理的な豊かさなど、人文社会環境に大きな影響を及ぼしたと評価し、農業活性化に対する評価は低かった。年齢別には顕著な差は見られなかった。

4. 将来の地域活性化及び定住環境改善方策

4.1 調査方法

評価要因としては、3.での分析に利用した要因を中心に、定住環境改善のために必須要因であると判断される人文社会環境対策、生活環境対策、農業活性化対策など3つの大要因と、計17の小分類要因を選定し、アンケート調査によって一番必要と思われる項目から優先順位を記入する方法で調査を行った。研究の一貫性のために対象及び地域は、3.で選定した同じ地域の被調査者(37人)とした。

4.2 地域活性化及び定住環境改善方向

調査結果、全体的に地域住民の生活と活動に必須不可欠な部門といえる生活環境対策が極めて緊急な課題であり、次に地域産業経済の主軸である農業の活性化を、最後に人文社会環境の順となった。大分類要因のうち、人文社会環境対策では、都市農村交流施設の導入→イベントの活性化や導入などの順で、積極的な交流事業を今後の課題としている。生活環境対策では、保健衛生施設の整備→医療福祉施設の拡充などの順で、高齢化社会を反映して地域住民の保健・医療福祉に高い関心を示しているのが特徴的である。農業活性化対策では、農産物の流通構造の改善→新たな地域特産物の発掘・開発などの順であった。

5. おわりに

本研究では、条件の不利な地域の活性化のために推進されてきた地域活性化事業の中で韓国の山菜莢祭りを事例として、本事業の効果を分析し地域の定住環境改善に及ぼす影響について考察した。本来の目的である所得増大と生活の質の向上に寄与していたが、過疎化と高齢化に対する効果と生活環境的改善への効果は微弱であった評価された。今後は、より効率的な事業推進と多様な効果のためには、地域住民全体が効果を享受できるような方策を模索すべきだと考えられる。

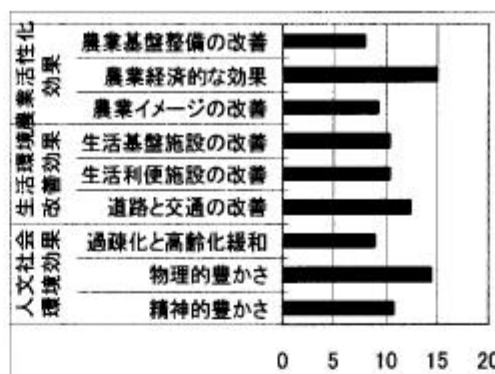


図1. 地域活性化事業の評価

The Evaluation Results of Regional Activation

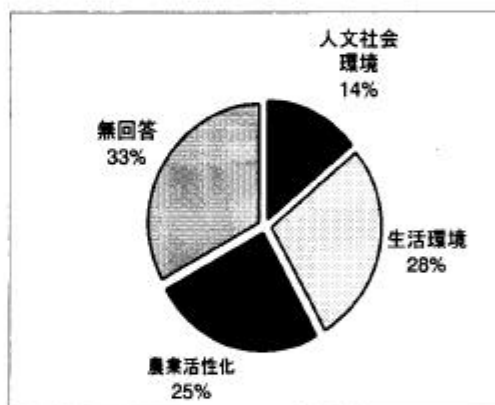


図2. 地域活性化と定住環境整備方向

The Direction of Settlement Environment Improvement